

# 峰のひかり

発行人

社会福祉法人七峰会

理事長 大平 和夫

〒036-8356

青森県弘前市大字下白銀町21番地8

電話 (0172) 33-8861

FAX (0172) 33-8862

http://www.shichihoukai.or.jp/



故 白取 幹人 理事



故 工藤 洋司 監事



故 工藤洋司氏と 故 白取幹人氏の

御霊のご冥福を祈りつつ

社会福祉法人七峰会

理事長

大平

和夫

平成28年は、3月12日に前監事工藤洋司氏が、又、4月6日には前理事白取幹人氏が相次いで急逝され、七峰会にとって大きな衝撃と悲しみの年となりました。

昭和48年に当時の厚生省から社会福祉法人七峰会が認可され、昭和49年から昭和61年の短期間に、現在の法人の核となる5施設の整備等を致しました。しかし会計事務の脆弱さがあり、これを危惧した当時の常務理事故堀内泰雄氏が故工藤洋司氏の青森銀行弘前土手町支店長時代の信頼ある人柄に惚れ、退職後に監事を要請し平成3年から就任致しました。以来熱意溢れる会計監査と指導を継続され、職員の力量向上を図って参りました。

この間社会福祉は措置制度から契約へと大きく変化し、会計もまた、経理準則から会計基準へ、更に新会計基準へと変遷しましたが、法人がこれに對してスムーズな対応が出来ましたこと

は、長年に亘る前監事故工藤洋司氏のご指導によるものと感謝を致している処であります。

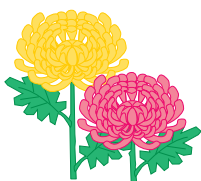
又、故白取幹人氏は弘前市生活福祉部長を経て、弘前市社会福祉協議会長の任にありましたが、平成25年6月から当法人の理事に就任されました。社会福祉に精通する事は勿論であります。博識で温厚篤実な人柄は人望があり保護司活動や農協監事等々社会的に幅広く活躍された方でした。当法人理事会におきましても、将来を見据えた実の有る意見を話され、当法人の発展のために大きな力となる事を確信していた矢先の事であり、残念でなりません。聞く処によりますと、体調不良のため1月中旬に受診し検査の結果余命を知り、3月下旬までに全ての関係機関の役職を辞任して入院され、4月6日に逝かれたとの事でした。改めてお二人を想い起こしてみますと、

春風をもって人に接し

秋霜をもって自らをつつしむ

の佐藤一斎の言葉が合うお二人でした。法人に對してのお二人のご貢献を心から感謝しつつご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



## はつぴいエコプラザ開催

山郷館サポートセンターくろいし

管理者 長岡恵美子

『山郷館サポートセンターくろいし』では4月より紅屋商事株式会社との協力を受け、ベニーマート黒石店にて「はつぴいエコプラザ」を開催しています。この活動は再生資源の回収と、障がい者ができる活動が多くある事を地域の方に広く理解していただくことを目的としています。毎週土曜日午前10時から午後2時30分まで、家庭で不要になった再生資源をお持ちいただくと、店内で買い物をした際に1点10パーセント割引になるグリーン券と引き換えができるという活動です。

開始当日、利用者の皆さんは緊張しながら店頭に来店されるお客様に「おはようございます」と挨拶をして、チラシ配りを開始しました。「新聞で見ました」と言って早速再生資源を持ってきてくださるお客様にグリーン券を渡しました。最初は顔を上げることもできなかった利用者さん、次第にお客様に笑顔で対応し、大きな声で「有難うございました」と言えるようになりました。



また利用者さんの中には回数を重ねるごとにお客様との触れあいが楽しくなり「来週も参加したい」との発言が聞かれています。地域の方に声を掛けていただくことで、利用者の皆さんが「できる」ことに対して自信を持ち、新しい一歩を踏み出す機会になればと考えています。お持ちいただいた再生資源を回収した収益金は黒石市からの補助金と併せて、全額利用者の皆さんに還元いたします。まだまだ小さな一歩ですが、地域で互いに協力をして暮らしていけるよう活動していきます。今後も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 『弘前市子どもの発達サポート事業』を始めました

児童発達支援センターはあと

児童発達支援管理責任者 福原由歌理

『児童発達支援センターはあと』では、「児童発達支援」（未就学のお子さん対象）、「放課後等デイサービス」（就学期のお子さん対象）、「保育所等訪問支援」（保育園等に通っているお子さん対象）の3つのサービスをしています。

平成28年4月からは、新たに弘前市が実施する「弘前市子どもの発達サポート事業」を受託して、お子さんの「気になる」段階からのサポート体制を整えて、お手伝いをさせていただいています。

その中の一つの「親子サークルめばえ」では、お気軽に親子で通いながら、お子さんの気になるところを話し合ったり、親子遊び・運動遊びを通して触れ合いを大切にしたりできる環境作りに努めています。

二つ目の「保育所等巡回サポート事業」では、地域にある保育園等、お子さんやご家族が集まる場への訪問をし、お子さんやそのご家族、サポートする保育士さんやスタッフの

方々と一緒にお手伝いをさせていただいています。

『児童発達支援センターはあと』は、今後ますます、地域の中で担っていく役割も増え、センター機能を充実させていきます。

スタッフの専門知識と支援力向上を図りながら、地域の皆様に頼りにされる児童発達支援センターを目指していきます。

### お問い合わせ先

#### 『児童発達支援センターはあと』

住所 弘前市大字熊嶋字亀田 184 の1  
電話 0172 (82) 5780  
FAX 0172 (82) 5781  
Eメール jidou-heart@xqd.biglobe.ne.jp





## シリーズ「かだる」

## 「仕事」と「住まい」と私

拓心館グループ『通勤寮 拓心館』

生活支援員 奥崎 萌美

私は、小学校3年生から高校3年生まで「バレーボール」をしていました。中学校も高校も強豪校に入学したため、人生の半分は「バレーボール」に費やしていました。高校3年生の時、真剣に将来どのような仕事をしたいのかと考えた時、「人と関わる仕事、人の役に立てる仕事」をしたいと思うようになり、その時に「福祉」という仕事に携わりたいと考えるようになりました。バレーボールを熱心に追いかけていた青春時代とは一転し、大学時代はしっかりと机に向かい、福祉の勉強を必死で頑張っていました。そして、大学4年生の就職活動の時に『社会福祉法人 七峰会』に出会い、拓心館グループ『通勤寮 拓心館』へ配属となりました。

実は、ちょっとした事情があり、同法人のグループホームの一室で、半年間、利用者さんと一緒に生活をするという経験をさせて頂きました。



た。時に利用者さんの喧嘩の仲裁に入るという事もあり、色々なハプニングも経験しました。けれども、現在の仕事にこの時の経験が生かされています。

前例に無い貴重な体験をさせて頂き、自分にとってプラスになる経験が出来たと思っています。

現在、2年目に入りだいたい仕事にも慣れてきましたが、まだ、利用者さんとしつかりと向き合えていないような気がします。「何が利用者さんの幸せなのか」を考えながら支援していきたいです。まずは資格取得に向けて日々勉強を頑張っています。

## 社会福祉の動向

社会福祉法人に求められつつ～

法人本部主任事務員 對馬 洋樹

前回は「地域における公益的な活動」について紹介させて頂いたのですが、今回は「財務規律の強化」について紹介したいと思います。

「財務規律の強化」については、①適正かつ公正な支出管理の確保、②内部留保の明確化、③地域福祉事業等への計画的な再投資、というものが示されています。

①に関しては、役員報酬基準を明確に示し、役員等関係者に対する特別な利益供与を禁止するというものです。

②、③に関しては、前回紹介した「地域における公益的な活動」にも関連するものです。内部留保の明確化については、純資産から事業に活用する土地や建物といった財産、建物の建替や修繕に必要な資金、事業経営するうえでの必要な運転資金など、事業継続に必要な財産を控除し、福祉サービスに再投下可能な財産額（社会福祉充実残額）を明確化することです。そして、再投下可能な財産額がある社会福祉法人に対しては、社会福祉事業や公益事業の新規実施・拡充に係る計画の作成が義務付けられることになります。これからの社会福祉法人には、将来の地域ニーズをしっかりと見定め、法人理念に基づきながら、多様なニーズに 대응していくことができるような中長期的なビジョンをしっかりと持ち、それを具体的な事業計画として実行していくことが求められます。

## 平成28年度

## 七峰会有縁物故者供養法要

平成28年5月6日、津軽山革秀寺において、第36回の七峰会有縁物故者559名（今次38名）の供養法要が執り行われました。導師様の読経と法要に出席した51名が焼香をしました。その後、浄心天華碑に移動して物故者のご冥福をお祈りしました。

供養法要の後、サンパレス秋田屋へ場所を移して法楽会を催し、物故者を懐かしみながら、思い出を語り合いました。

各施設グループのホームページでも情報発信中！



## 編集後記

熊本地震の発生から早2ヶ月となります。今回の地震によって亡くなられた方々とご家族の皆様にご哀悼の意を申し上げますとともに、被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の日々も早い復興と、平穏な日々を取り戻されるよう心よりお祈り申し上げます。

今回は、動き始めた新年度の様子を皆様にお届けしました。七峰会の新たなあゆみをご理解いただければ幸いです。

## 社会福祉法人 七峰会 平成27年度 決算報告書

これは、平成28年5月11日～17日に監査を受け、平成28年5月26日に評議員会の同意を得て、同日理事会において承認されたものです。尚、七峰会法人本部事務所にて閲覧可能です。

## 資金収支計算書

自 平成27年 4 月 1 日  
至 平成28年 3 月31日

(単位:千円)

勘定科目	金 額
事業活動収入	2,810,587
事業活動支出	2,180,658
事業活動資金収支差額	629,929
施設整備等収入	136
施設整備等支出	59,512
施設整備等資金収支差額	△ 59,376
その他の活動収入	29,929
その他の活動支出	360,032
その他の活動資金収支差額	△ 330,103
当期資金収支差額	240,450
前期末支払資金残高	2,178,748
当期末支払資金残高	2,419,198

# 事業活動計算書

自 平成27年 4 月 1 日  
至 平成28年 3 月31日

(単位:千円)

勘定科目	金額
サービス活動収益	2,810,038
サービス活動費用	2,318,553
サービス活動増減差額	491,485
サービス活動外収益	548
サービス活動外費用	198
サービス活動外増減差額	350
経常増減差額	491,835
特別収益	1,966
特別費用	1,849
特別増減差額	117
当期活動増減差額	491,952
前期繰越活動増減差額	3,724,180
当期末繰越活動増減差額	4,216,132
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	28,100
その他の積立金積立額	359,201
次期繰越活動増減差額	3,885,031

## 貸借対照表

(平成28年3月31日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
流 動 資 産	2,797,390	流 動 負 債	372,161
固 定 資 産	4,765,398	固 定 負 債	3,000
(基本財産)	1,955,208	負債の部合計	375,161
(その他の 固定資産)	2,810,190	純 資 産 の 部	
		基 本 金	564,540
		国庫補助金等 特 別 積 立 金	457,952
		その他の積立金	2,280,104
		次期繰越活動 増 減 差 額	3,885,031
		(うち当期活動増減差額)	491,952
		純資産の部合計	7,187,627
資産の部合計	7,562,788	負債の部及び純 資産の部合計	7,562,788

※棚卸資産(7,179千円)/短期前払費用(1,852千円)を支払資金より除き、1年以内返済予定借入金(3,000千円)を支払資金に加える。

注1. 減価償却額の累計 3,118,731 千円

注2. 徴収不能引当金の額 0千円

[illegible]